令和七年第十回
世田谷区教育委員会定例会

時 令和七年五月二十六日
所 世田谷区教育委員会会議室

午前十時開議

○知久教育長 ただいまから令和七年第十回世田谷区教育委員会定例会を開催いたします。

本日、澁澤委員はオンラインで参加しております。なお、本会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第十四条第三項に基づき会議は成立していることを申し添えます。

まず、次第の1、本日の会議録への署名委員を指名させていただきます。中村委員と坂倉委員、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、議案七件と事務局からの報告が八件ございます。

それでは、次第の2、議事に入ります。

日程第一を上程いたします。

〔大野調整係長朗読〕

日程第一 議案第四十号 区議会提出議案に関する意見聴取（令和七年度一

般会計補正予算案（第一次）（教育委員会事務局

所管分）

○知久教育長 議案第四十号につきまして、玉野教育政策・生涯学習部長より提案理由の説明をお願いします。

○玉野教育政策・生涯学習部長 それでは、議案第四十号、区議会提出議案に関する意見聴取（令和七年度一般会計補正予算案（第一次）（教育委員会事務局所管分））について御説明をいたします。

本件は、令和七年第二回世田谷区議会定例会に提出予定であり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第二十九条の規定に基づき区長から意見を求められましたので、御提案するものでございます。

まず、歳入についてです。本資料は区全体のものとなりますが、教育委員会事務局所管分といたしましては、資料右上、八ページを御覧ください。

12 使用料及び手数料の 01 使用料が該当し、百九十二万七千円の減額となります。内容は、認定こども園の給食費無償化により、保護者負担相当額を減額するものです。

次に、歳出についてです。九ページを御覧ください。資料の中ほど、08 教育費の 01 教育総務費が該当し、千八百八十八万円の増額となります。内容は、ポートランド市への中学生教育派遣を再開するに当たり、現地への表敬訪問経費及び実地踏査費用になります。

説明は以上でございます。一〇ページ以降に世田谷区補正予算説明書をおつけしてございますので、後ほど御確認いただければと思います。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

○知久教育長 それでは、議案第四十号について採決を行います。

本件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、本件を原案のとおり承認いたします。

次に、日程第二及び日程第三を併せて上程いたします。

〔大野調整係長朗読〕

日程第二 議案第四十一号 区議会提出議案に関する意見聴取（職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例）

日程第三 議案第四十二号 区議会提出議案に関する意見聴取（幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例）

○知久教育長 議案第四十一号及び議案第四十二号につきまして、秋山学校教育部長より提案理由の説明をお願いします。

○秋山学校教育部長 私から、議案第四十一号、また、議案第四十二号の二件について一括して御説明をいたします。

区議会条例改正議案を提案するに当たりまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第二十九条に基づき区長から意見の求めがございましたので、御審議をお願いするものでございます。

本二件の条例改正について、議案ごとに御説明をいたします。まず、議案第四十一号、区議会提出議案に関する意見聴取（職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例）ですが、地方公務員の育児休業等に関する法律等の改正に伴い、規定整備を行うものでございます。

改正内容は、一点目といたしまして、部分休業及び子育て部分休暇の承認において、現行の部分休業に新たな取得パターンを追加するものでございます。

具体的には、現行の部分休業、一日につき二時間を超えない範囲内で承認するものに加えまして、一年度につき十日相当、七十七時間三十分でございますが、この範囲内で承認することが可能となり、部分休業等を希望する職員はどちらかのパターンを選択し、請求することができるようとなります。

また、二点目といたしまして、取得時間帯の勤務時間の始め、または終わりにおいて承認する取扱いを廃止し、勤務時間内のいずれの時間帯でも承認できるものとなります。

次に、議案第四十二号、区議会提出議案に関する意見聴取（幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例）ですが、子育て部分休暇に係る規定を改める必要があります。

改正内容といたしましては、現行の子育て部分休暇の取得に当たり、一日の勤務時間の一部につき勤務しないことが相当であると認められる場合における

休暇として子育て部分休暇を承認するものとされているものを、子育て部分休暇に新たな取得パターンが追加されることにより、一日の勤務時間の全部または一部につき勤務しないことが相当であると認められる場合における休暇として、子育て部分休暇を承認するものに改めます。また、その他、文言の整理を修正するものでございます。

説明は以上になります。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいでしょうか。

○知久教育長 それでは、本二件について一括して採決することといたします。

これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、採決に入ります。

本二件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、議案第四十一号及び議案第四十二号の二件を原案のとおり承認いたします。

次に、日程第四を上程いたします。

〔大野調整係長朗読〕

日程第四 議案第四十三号 幼稚園教育職員の期末手当に関する規則の一部
を改正する規則

○知久教育長 議案第四十三号につきまして、秋山学校教育部長より提案理由の説明をお願いします。

○秋山学校教育部長 それでは、私から、幼稚園教育職員の期末手当に関する

規則の一部を改正する規則について御説明をいたします。

本規則は、懲役と禁錮を廃止し、新たな刑として拘禁刑を創設するという刑法改正に伴い規定整備を図るものでございます。

具体的には、期末手当に関し、一時差止め処分をする際に使用する処分説明書である第三号様式中の禁錮の文言を拘禁刑に改めるものでございます。

説明は以上です。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

○知久教育長 それでは、議案第四十三号について採決を行います。
本件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、本件を原案のとおり承認いたします。
次に、日程第五を上程いたします。

〔大野調整係長朗読〕

日程第五 議案第四十四号 区議会提出議案に関する意見聴取（世田谷区立
学校設置条例の一部を改正する条例）

○知久教育長 議案第四十四号につきまして、宇都宮教育総合センター長より
提案理由の説明をお願いします。

○宇都宮教育総合センター長 議案第四十四号、区議会提出議案に関する意見
聴取（世田谷区立学校設置条例の一部を改正する条例）について御説明をいた
します。

本件は、令和七年第二回区議会定例会に提案予定であり、地方教育行政の組
織及び運営に関する法律第二十九条の規定に基づき区長から意見を求められま
したので、御審議いただくものでございます。

四ページを御覧ください。本件は、世田谷区立学びの多様化学校（不登校特例校）等基本計画に基づき、令和八年四月、北沢四丁目三十二番二十号に世田谷区立北沢学園中学校を開設するためのものです。

主な改正内容として、世田谷区立学校設置条例別表三の部に同北沢学園中学校及び同北沢四丁目三十二番二十号を加え、令和八年四月一日から施行いたします。

以上で説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

○知久教育長 それでは、議案第四十四号について採決を行います。

本件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、本件を原案のとおり承認いたします。

次に、議事の都合により、次第の3、報告事項(7)を先に聴取しますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、報告事項(7)の聴取に入ります。

(7)世田谷区における第一子保育料等無償化の取り組みについて、本件に関して、米倉乳幼児教育・保育支援課長より説明をお願いします。

○米倉乳幼児教育・保育支援課長 議案第四十五号、第四十六号に関連しまして、私から、報告事項(7)世田谷区における第一子保育料等無償化の取り組みについて御報告いたします。

1、主旨でございます。東京都の第一子保育料等無償化に伴う補助金の拡充を受けまして、子育て支援の一層の拡充を図るため、認可保育所等の保育料を

無償化するとともに、認可外保育施設に対する保育料補助額を拡充し、また、一部が利用者負担となっている給食費を無償化いたします。

2、保育料無償化・補助の拡充については、他領域のため、概要を簡単に御説明いたします。

(1)認可保育所等保育料の無償化については、ゼロから二歳児クラスの住民税課税世帯の第一子保育料を無償化することにより、認可保育所等に通う区内在住の全児童の保育料が無償化になります。

(2)認可外保育施設利用者への保育料補助の拡充については、都補助の拡充内容に加え、一部区単費を加算することで、認可保育園利用者との保育料負担の公平性、認可外保育施設利用者間での補助支給額の格差是正を図ることといたします。補助金額や上限額については、①から⑤に記載のとおりでございます。

ページが飛びまして、四ページを御覧ください。(3)未就園児の定期的な預かり事業にかかる利用料補助の拡充については、負担の公平性を図るため、一部区単費八百円を加算し、一律三千円を日額の上限といたします。

(4)定期利用保育事業の保育料補助の拡充について、待機児童のみが利用できる事業であることから、認可保育所等と同じ十一時間利用の保育料を上限に増額いたします。

(5)私立幼稚園等の預かり保育料補助の拡充について、上限額を月額一万六千三百円で補助の範囲を拡充いたします。対象範囲や金額の詳細につきましては、項目ごとの表を後ほど御覧ください。

続きまして、五ページを御覧ください。3、給食費（副食費、主食費）の無償化についてです。前提としまして、副食費はおかず代、主食費はお米を中心とした主食に係る費用のことをいいます。

(1)副食費については、令和元年十月の幼児教育・保育無償化以降、区では

利用者負担を基本としており、ゼロから二歳児クラスは保育料に含めて徴収しております。また、三歳以上児クラスは副食費として徴収しており、世帯所得に応じて免除をしています。今回、都が少子化対策として、国に先駆けてゼロから二歳児クラスの保育料の無償化を実施するものであることに鑑み、保育料に含まれている副食費も徴収しないことといたします。これに伴い、三歳児クラス進級時に利用者に費用負担が生じないよう、三から五歳児クラスの副食費も無償化することとし、利用者から直接副食費を徴収している私立保育所等に対しては副食費相当分を運営費として支給することとします。

(2)主食費については、これまで認可保育所等の三歳以上の主食費は公費負担としており、(1)で述べたとおり、副食費を無償化することで三歳以上児についても給食費が無償化となります。これに合わせて、認定こども園及び給食を提供している新制度移行幼稚園に通う三歳以上児についても利用者負担が生じる状況避けるため、区立の認定こども園の主食費は無償化し、私立の認定こども園及び新制度移行幼稚園に対して主食費相当分を運営費として支給することとします。これにより、区立認定こども園、多聞幼稚園について、認定区分にかかわらず、全ての園児の給食費が無償化されます。

4、事業開始日は令和七年九月一日を予定しております。

5、条例改正等については、第一子保育料無償化、給食費の無償化に伴う条例改正を令和七年第二回区議会定例会に提案いたします。多聞幼稚園の給食費無償化に伴い、世田谷区立認定こども園保育料条例が対象となります。また、必要な規則、要綱など関連規則の改正を併せて行ってまいります。

六ページを御覧ください。所要経費については、6に記載のとおりです。

7、今後のスケジュールにつきましても記載のとおりとなっております。

私からの説明は以上でございます。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、

どうぞ。

よろしいですか。

○知久教育長 それでは、次第の2に戻り、日程第六を上程いたします。

〔大野調整係長朗読〕

日程第六 議案第四十五号 区議会提出議案に関する意見聴取（世田谷区保

育料条例の一部を改正する条例）

日程第七 議案第四十六号 区議会提出議案に関する意見聴取（世田谷区立

認定こども園保育料条例の一部を改正する条例）

○知久教育長 議案第四十五号につきまして、宇都宮教育総合センター長より提案理由の説明をお願いします。

○宇都宮教育総合センター長 議案第四十五号及び第四十六号、区議会提出議案に関する意見聴取について一括で御説明を申し上げます。

本件は、世田谷区保育料条例の一部を改正する条例及び世田谷区立認定こども園保育料条例の一部を改正する条例を令和七年第二回世田谷区議会定例会に提案するに当たり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第二十九条の規定に基づき区長から意見を求められたため、御審議をお願いするものでございます。

本件は、いずれも世田谷区における第一子保育料等無償化の取組みにより、関連する条例の一部を改正するものでございます。

初めに、議案第四十五号、区議会提出議案に関する意見聴取（世田谷区保育料条例の一部を改正する条例）について御説明を申し上げます。

資料右肩に記載の一〇ページ目、新旧対照表を御覧ください。左側が改正後、右側が改正前となります。教育に関する主な改正箇所について御説明申し上げます。

一二ページ目にお進みください。第五条の二第一項ですが、区立認定こども

園の保育園枠の給食費については本項のとおりとしており、給食費の額を零に変更しております。

続きまして、議案第四十六号、区議会提出議案に関する意見聴取（世田谷区立認定こども園保育料条例の一部を改正する条例）について御説明申し上げます。

五ページ目、新旧対照表を御覧ください。こちらも主な改正箇所について御説明申し上げます。

七ページ目にお進みください。第五条第二項について、給食費の額を零に変更しております。

次に、一一ページ目にお進みいただき、別表第二を御覧ください。これまで預かり保育料に含まれていた給食費を除いた額に変更しております。

本件は、いずれも令和七年九月一日から施行する予定でございます。説明は以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○知久教育長 ただいま議案第四十五号及び第四十六号の説明を一括して行わせていただきました。

本件につきまして、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。よろしいでしょうか。

なお、議案の採決について、一括して採決する議案の形をとっておりませんので、個別に採決をさせていただければと思います。

それでは、まず議案第四十五号について採決を行います。
本件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、本件を原案のとおり承認いたします。

次に、議案第四十六号について採決を行います。

本件を原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○知久教育長 御異議なしと認め、本件を原案のとおり承認いたします。

それでは、次第の3、報告事項の聴取に入ります。

(1)令和七年度世田谷区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について(第1回)、本件に関して、山本教育総務課長より説明をお願いします。

○山本教育総務課長 それでは、御説明させていただきます。本件につきましては、第九回教育委員会定例会において進捗状況の報告と今後のスケジュールについて御報告させていただきました。本日は、第一回目の点検・評価の実施となります。

資料一ページを御覧ください。本日、御議論いただきます対象項目でございますが、七項目が対象となります。基本方針1「新しい知を創造する」の「1―1乳幼児教育・保育の充実」から、「1―7学校への支援と働き方改革」までの七つの取組み項目となります。

教育委員の皆様からの御意見と併せ御議論をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○知久教育長 本日は、基本方針1、新しい知を創造するに掲げる各取組み項目について御意見をいただきたいと思っております。

まずは、澁澤委員よりお願いいたします。

○澁澤委員 私からの質問は一件だけでして、あとは意見を述べさせていただきましたので、お答えをいただかなくても結構ですので、質問に関してはお答えをいただきたいと思っております。

まず最初に、全体を見ての感想ですが、今回のまとめ方は大変よいと思えます。取組み、実績、成果、課題と方向性、決算、予算。特に予算、決算額がゼ

口でも私どもが必要と思うことは十分反映されているという形で、まさに教育委員会がどこを目指しているかということをも具体的にはつきりと示したまとめ方になっていると思います。まとめていただいた事務局の方たちにも感謝を申し上げます。

同じく全てに関係する問題として、今回、非認知能力という言葉が出てまいります。この非認知能力の定義を私なりにさせていただきました。非認知能力とは言語化される前の感覚、触れる、感じる、聞く、日本語でいうと物の哀れとか身体性と言われる概念に近いと思います。人間各自が持つ情報量は、非認知情報量が認知情報量よりはるかに多いということです。コミュニケーション能力を養う上で非認知能力はとても重要なものと思っております。

と申しますのは、我田引水になります。今年で二十四年目になりますが、私は「聞き書き甲子園」という活動を続けております。毎年、百人の高校生を全国から公募で集めて、日本の自然の中で生きてきた百人のおじいちゃん、おばあちゃんたちの人生の聞き書きをするという形です。まさに非認知的なものを認知化し、言語化して作品として残すというその活動を通して、当初はアークライブをつくることを目的としましたが、高校生のコミュニケーション能力が格段に変わってくるという体験をしております。

コミュニケーションというのは、多くの高校生たちは言語でコミュニケーションを取るものだと思いますが、老人たちの話を聞くということは非認知感覚を研ぎ澄ませて、その中から文字化をさせていく。つまり、非認知から認知へ文字化をさせて、そこで認識をしてコミュニケーションを取っていくことが重要なのだということに多くの学生が気づいてまいります。その結果、多世代間のコミュニケーションを怖がらなくなりますし、現在、よく言われております新入社員が電話に出られないというような現象、つまり、言語だけをコミュニケーションだと思っている世代にとっては、その意味で大変有効な教育課

程だということを私も実感しております。その意味で、非認知能力というのは教育における非常に重要な項目ということを私は最初に述べさせていただきます。

取組み項目ごとに質問と意見を言わせていただきます。先ほど申しましたように、質問は一つです。取組み項目(1)について。これはこの項目全体に言えるのですが、公立の幼稚園が一体どこをゴールとして目指すのかということ一度、担当部署からお聞かせいただければと思います。と申しますのも、園児数の急激な減少、それは児童の減少でもありますし、同時に併せて無償化、今も議案に出ましたように、全てのそういうコストが無償化をされていくという形で、私立幼稚園、あるいは保育園との取り合いというようなこともあるかと思えます。そのような中で、公立の幼稚園、保育園、認定保育園はどこを目指していくのか、素直な御意見をお知らせいただければありがたいと思っております。

以下は私の意見になります。取組み項目(2)についてです。キャリア・未来デザイン教育の目指すものを教員、保護者、生徒とぜひ共有をお願いしたいと思っております。と申しますのは、キャリア・未来デザイン教育というのは、あくまでも生き方の探究であって、業種、業態、就職先の探究ではないということです。そんなことは分かっていると皆さん思われるかもしれませんが、まだまだその部分の意識の徹底が世代間によって随分違うのではないかと思っております。

偶然、今月、五月十三日にウルグアイの元大統領のホセ・ムヒカさんがお亡くなりになりました。彼が東京大学で学生に向かって講演をしたときに非常に印象的な講演をいたしました。講演は「人生には二つの選択肢がある」という題でした。ただ生まれたから生きるという選択肢と、自分の人生を操縦するという選択肢がある。前者は生きるための職業選択であり、そのための競争社会

ができてしまい、要するに生き抜き方を探究するという方向に行く。後者は頭脳で考え行動する、それが本来の自由の意味であり、自己実現ややりたいことのために周りと協調しながら場所や時間をつくっていく。人生で重要なことは勝つことではなくて歩み続けることなのだという講演をなさいました。当然、東京大学の学生たちには人生を操縦する人間になってくれということをは述べたわけですが、これはキャリア・未来デザイン教育にとっても重要な視点だと私は思っています。歩み続けることを自覚させる教育、それがまさにキャリア・未来デザイン教育だと私は思います。

私たち多くの大人も、私の世代は特にかもしれませんが、日常で忘れている視点だと思えます。人生は職業選択ではなくて、生き方づくり。現代はほとんどの人がサラリーマンになっております。先ほどの「聞き書き甲子園」で、今、名人と言われている老人たち、その老人たちのお父さん、おじいさんは何をしていますかと問うと、ほとんどの老人たちは答えられません。なぜかという、今から百年前、二百年前ぐらいは、ほとんどの日本人は、ある意味ではマルチワーカーです。一つの職業に就いている人間はほとんどいない。そのことをお百姓さんといいました。百の姓を持つこと、要するにありとあらゆることをやるのが生きるということだった時代が長く続き、ほとんどの人たちがサラリーマンになって、職業選択がこれほど意識されるようになったのは実はこの六十年の歴史だということです。これからの多様性社会ということを考えるときに、職業選択を生き方としていくという考えはもう既に通用しなくなる価値観だと思います。その意味でも、キャリア・未来デザイン教育の本来の意味というものを徹底させることを教育現場ではぜひお願いしたいと思っております。

また、次の意見なのですが、1―2―②でDXの問題がかかってきています。現在、高校生、大学生たちは平気で生成AIを活用しています。いろいろ

なりテラシーの問題ですとか、そうやってA Iを、あるいはI C Tをどうやって使うかという教育も確かに重要なのですが、要するに生成A Iを持った生徒たちもみんなこれを使うようになる、小・中学生たちも当たり前のように生成A Iを活用するようになったときの教育の仕方というのは、実は「D Xの推進とI C Tを活用した教育」と「その質の変換」を同時進行で進めていかないといけない時代だと思っています。確かに教員の時間をつくっていくとか、負担を軽減するというところでD Xを促進する側面は大変大きいと思いますが、生成A Iは教育の本質の部分を大きく変えていく可能性がある、そこに我々がどうやって対処するかという視点は今から養う必要があると思います。

生成A Iの出現で、先ほど言った自身の中での非認知から認知への情報の変換、今まではそれを脳でやっていました。私どもの教育課程の中では言葉の力と言われるものです。ところが、それをA Iに任せることが可能になります。生徒のコミュニケーション能力は間違いなく低下をすると思います。というのは、「聞き書き甲子園」でも、名人からの聞き取りをA Iに聞かせて、そして、それを作品にまでさせて発表するという高校生が出てくるようになってきました。そうすると、何のために聞き書きをしているのかという本来の意味がぶれてしまっている、そんな時代に突入しています。人間のコミュニケーション能力は、まさに非認知と認知の相互作用によって生まれます。脳の健全な発達にとっても、この非認知と認知の相互作用がとても重要だということは医学的にも証明されています。そのようなことも含めて、生成A Iとの向き合い方、それを教育の現場でどういうふうにして利活用していき、それに対してどういうふうに導いていくのか、その辺の御議論もぜひお願いをしたいと思います。

同時に学習型アプリの活用の部分では、逆に例えば、今日、私はここに参加していますが、今回、教育委員は全員、紙媒体の点検・評価の冊子を配ってい

いただきました。ふだんまさに文字で情報をやり取りして、そこでイエス、ノーを言う教育委員会の場ではタブレットで十分なのですが、今回のように新しい考え方の、そもそもそこに何があるかというような思考を深める場合には、どうしても紙媒体というのが重要だと私は思っています。教育先進国と言われてるフィンランドの教育でも、もう一回紙を見直そうというような方向も出てきたと伺っております。これは何も全部タブレットになることが教育の現場において先進的なことで、全てそちらへ向かうのだというような観念ではなく、紙とICTをうまく利用していく、それをぜひ考えていただければと思います。

また、1―2―⑤の部分、教育総合センターを中心としたSTEAM教育の進展は、私は大変評価をしております、大変ありがたいなと思っております。こういうトライをしたかったということを長年思っております、ぜひ教育総合センターを中心に各学校現場でもこれを発展させていただければありがたいと思っております。

最後の現状と課題についての欄なのですが、その中で個人データの保管、取扱いはぜひ細心の注意を持っていたきたい。まさに全員がデータにアクセスできる、あるいは現在の教員だけがアクセスできるとか、多くの人たちがビッグデータにアクセスできるという状況は、ビッグデータそのものの保管というのが今までの次元よりも相当厳密になされないと、これが活用できないということになると思いますし、教育現場でこんな漏えい等が起きたら社会的な大問題にもなりかねないので、その辺はぜひ細心に取り組んでいただきたいと思います。しております。

取組み項目(3)、1―3―①についてです。何もこれはここにあるようなJ Cだけではなくて、現在、企業に勤めている人間は職業選択以外の人生はないという人生を送ってまいりました。それは私も含めて、今の多くの保護者や教

員もそういう世代を生きてきております。ただ、先ほど申したように、これら多様な働き方の社会に変わっていくときに、今の企業人だけという形を利用していくと、ある意味では非常にリスクがある。つまり、多様な人材をぜひ教育の現場で活用していただきたい。いろいろな働き方を持つ人たちをぜひ積極的に取り込みながら私たち教育委員会や教員の皆さんも共に学んでいく、これからの生き方を学んで一緒に考えていく、そのような形にしていただければと思っております。

1―3―②についてです。学校生活における自治的活動は、ぜひ推進していると思います。自治とは、まさに主体的に生きることを学ぶということだと思います。自分で判断し、自分で行動する、自分たちで意見を共有するということです。まさに主体的に生きることを学ぶ場が学校であり、学校はある意味では子どもたちが中心の社会です。教育大綱にも子どもは未熟な大人ではないと書いてあります。つまり、ただ子どもの意見を聞くということではなくて、子どもが社会をつくっていく、まさに学校現場はそういうトライの場だというふうに私は思います。教員は子どもたちの社会の中で信頼できる大人であり、アドバイザー、まさに地域社会が一番身近な社会ということが言えるのかと思っております。

私は現状と課題の文章というのを拝見して、とても勇気づけられました。特色ある学校というのは、大人から見た特色ある学校ではないということだと思います。生徒こそが自校の特色をつくり出し、それを認識し、誇りとしてほしい、同時に、そのような学校経営をしているということが世田谷の教育に携わります私たちの矜持であるというふうにすら思っております。ぜひ積極的に進めていただければと思います。

取組み項目(4)についてです。分教室ねいろ、新設の学びの多様化学校、北沢学園という名前がありました。まさにこの教育は、世田谷区のこれからの

教育がどこを目指しているか、ということを示す非常に重要な取組みだと思っております。まだまだ試行錯誤のことが多いと思いますが、健全に発展をさせていっていただき、私どもの特色をぜひつくっていただければと思っております。

1―4―③のところで、企業の取組み、企業を巻き込むということですが、確かに企業も重要な教育リソースでありますが、最大の教育リソースは地域住民であり、地域社会であるということは私たちも共通の認識として持たなければいけない案件だと思っております。

取組み項目(5)について、まさに1―5―⑦の新BOPというのは、今後ますます重要性を増すと思っております。所管部署とのさらなる連携、地域社会のアイデア出しをぜひ期待をしているところです。

また、ちよつとずれますが、現状と課題のところに施設のZEB化という表現がされていきました。これは何もこの案件だけではなくて、今後、世田谷区の教育施設をZEB化していくということは、地球環境のためにも、最大の良い教育ツールにもなることだと思いますので、ぜひZEB化は検討し、進めていただければと思います。

最後になります。取組み項目(7)についてです。まさに世田谷区の教育の本年度の目玉事業、一丁目一番地と言われる施策だと私は思っております。ぜひオール教育委員会で当たってほしい。担当部署だけではなくて、教育委員会、あるいは教員も含め、私どもも全員でこの問題に携わっていきたいと思えます。この事業は、ある意味では今までの慣行、あるいは今行われていること、その社会を大幅に修正するという一大変革だと私は思っています。

私の人生の長い経験から、変革というのはシステムを変えれば世の中が変わるということは一回もありませんでした。どんなにシステムを立ち上げても人は動かないものです。今までの経験からなかなか抜け出せないというのが人間

という生き物だと思います。教育に限らず、現存の体制を変えるためには、ある意味では客観的な視座を持ったよそ者の存在が必要です。担当部署だけ、例えば学校と教育委員会とか、学校内の管理職と一般職というような形でこの議論を進めていくと、結局、議論の本質ではなくて、二極化のどちらかを選択するかという議論になってしまう、ある意味では、それが改革全体の足を止めてしまうというようなことを私は経験としてよく見てまいりました。

私は地域づくりに携わってまいりましたので、地域づくりの中には絶えず生産者と消費者がいます。これで意見をまとめていくというと、なかなか地域はまとまらなくて、動かなくなる。そこには必ずよそ者が必要だということですよ。そのときにそれを改善し、前進させるためには、優れた行司役としてのよそ者。行司役とは、議論を二元化させないで、共感をつくり出していく役目を担うというふうに私は思っています。その共感をつくり出せるようなよそ者をうまく巻き込むということは社会の合意形成の大変重要なやり方だと思いますので、この部分はまさに坂倉先生の専門とされる部署でもありますので、この働き方改革にはいろいろな行司役をどううまく使っていくかということもぜひ御議論をいただければありがたいと思います。

大変長くなりましたけれども、私からの意見、質問は以上とさせていただきます。

○知久教育長 澁澤委員、取組み項目を一つずつ、御丁寧に貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。

質問が一点出ております。公立の幼稚園のゴールという質問でした。

○米倉乳幼児教育・保育支援課長 まず、保護者の働き方の多様化に伴いまして教育、保育のニーズも変化しております、御指摘のとおり、区立幼稚園の園児数は年々減少している状況でございます。これを踏まえまして、令和四年八月に区立幼稚園集約化等計画を策定しまして、現在、八園ある区立幼稚園を

五地域に各一園程度に集約化していくこととしております。また、令和三年十二月に乳幼児教育支援センターを設置しまして、公立、私立幼稚園、保育所等の枠を超えて質の高い幼児教育・保育を推進しているところでございます。

区立幼稚園としましては、乳幼児教育支援センターを拠点としまして、1―1―①に記載のあるように、モデル研究を実施して、区内の質の高い教育、保育を牽引する役割があると考えております。また、集約化等計画では、配慮を要する児童を含め、三歳児からの受入れを基本に要配慮児や医療的ケア児への対応強化を図るサーフティ―ネットの役割もあるものと認識しております。こうした状況も踏まえまして、1―1―②に記載のとおり、集約化計画を着実に推進していくことが重要と考えております。

○知久教育長 澁澤委員、今の回答につきまして御意見等ございますでしょうか。

○澁澤委員 そうしますと、公立の幼稚園、保育園というのはある程度、要するにいろいろな障害を持った方も含めてですが、そういう特殊な事例の方々の受皿という機能にするというふうに解釈してよろしいのでしょうか。

○米倉乳幼児教育・保育支援課長 受皿としての機能だけではなく、申し上げたとおり、世田谷の教育、保育全体を牽引する役割があるものと考えております。

○知久教育長 よろしいでしょうか。

では、次に、中村委員。

○中村委員 幼児教育の方向性とか、キャリア教育の意義については澁澤委員にお話しいただきましたので、私からは細かい点で、まず六ページです。

キャリア・未来デザイン教育の推進というのがありますが、今この中でキャリア・パスポートの活用というのがメインになっていると思います。実際のところ、このままでもいいのか、さらなるバージョンアップが必要なのかどうか、

その辺を御検討いただけたらと思います。後で視察の報告を述べるのですが、名古屋市では全校にキャリアコンサルタントを配置しています。そのような取り組みも地方では行われているということで、さらなるステップ、キャリア・パスポートの次の段階が考えられないかどうか、御検討いただけたらと思います。

それから、次に九ページ、個に応じた学習支援です。少人数教育の推進というところで三十五人の学級編成を行ったとあるのですが、これは国の施策であって、私の理解としては、例えば算数、数学、英語で、小・中学校で少人数指導をやっていますけれども、そのあたりの成果と課題のことなのかなと理解をしていたので、これは質問になりますけれども、この記載でよろしいのかどうかということ です。

次は、一三ページです。生徒会サミットのことが書いてあります。私も何回か生徒会サミットを見ていますけれども、近年、割と自校PRを中心に行っていて、昨年、三か条の取決めをやりましたけれども、実はよく区長がお話するオランダの視察のときに私も行っていたのですが、オランダでは全国的な生徒会連合組織があつて、そこが国に対して政策提言を行っている、その生徒会の出身者から文科省の幹部が出ている、そこまで力を持った連合生徒会組織がオランダに限らず、ヨーロッパのいろいろなところにあるのです。スウェーデンにもありますし、ドイツもある。最近、私が知ったところでは日本にも生徒会活動支援協会というのがありまして、全国生徒会大会を開催しています。そこでいろいろな生徒会の優良事例を報告しています。

生徒会サミットの一つのゴールではないですけども、世田谷区も生徒会の連合組織みたいな、例えばこのサミットを活用して区長に政策提言を行うようなことをやってもいいのかなと。御存じのとおり、最近、児童・生徒の意見表明権というのが注目されていますので、そういった意味合いからも、生徒会サ

ミットを活用して、例えば総合教育会議で代表者が区長に政策提言を行うというようなゴールをつくつてもいいのかと思っております。生徒会サミットのバージョンアップということもお願いしたいと思っております。

それから、一四ページです。コミュニティ・スクールのことですが、以前も申しましたが、最初の校長会ときに印象的な課題として残ったのが、コミュニティ・スクールの運営協議会の開催回数が非常に少ない学校が見受けられました。つまり、コミュニティ・スクールの制度自体が世田谷区で形骸化していないかという危険性を感じました。実は私は区内のコミュニティ・スクールの委員もやったことがあるのですが、多分、多くの学校で、学校からの報告会で終わっているのではないかと、議論の場になっていないということが感じられます。私は八王子の教育委員をやられた方と一緒に仕事をしていたのですけれども、運営協議会を熟議の場にということが八王子の非常に大きなスタンスになっていました。ですので、区内のコミュニティ・スクールの会議の形骸化ということを懸念しておりますので、この辺も課題として捉えていただければと思います。

それから、一六ページ、学びの多様化学校のことです。これも後で視察の話にも出しますが、西濃学園というところでは臨床の知見というのを非常に重視しております。つまり、心理スタッフをかなり充実させている。やはり心理的な面で課題を抱えている生徒が多いわけですので、単に教員だけではなく、心理スタッフの充実ということも御検討いただきたいですし、教員もかなりカウンセリングマインドを持っていないと、この学校の教員としての対応が難しくなるのかなという感じを視察で持ちました。ぜひ新しい学校には、そういった面で教員の人事を進めていただければと思います。

次は、二三ページ、学校協議会と避難所運営委員会のことです。いわゆる防災チームのようなものを実行部隊として必須化というお話がありました。前

にも申しましたように、避難所運営委員会がその役割を担っているところもあるので、それであえて並列してしまうと困る学校もあるのではないかという懸念と、むしろ防災ということよりも、学校の安全、特に小学校などは通学上の安全などが話題になりますので、安全対策チームという意味合いにしたほうが避難所運営委員会との重複を避けられるのではないかという感じがしています。これも御検討いただければと思います。

そして、最後に二六ページです。部活動の地域移行は課題が多くて、なかなか難しいところですが、例えば拠点校ではないですけども、サッカーはこの学校で、野球はこの学校でというような競技ごとに幾つかの学校で合同化して、地域部活のような形にする。そうすれば、そこにいわゆる支援員を配置すればいいということになるので、一校単位の部活という考えから、拠点校を中心とした複数の学校による部活づくりというのも一つ、御検討いただければと思います。

雑駁ですが、私からは以上でございます。御検討をよろしくお願いいたします。

○知久教育長 御意見でよろしいでしょうか。

○中村委員 一点だけ質問は、例の少人数教育のところ、この記載でいいのですかという、そこだけです。

○山本教育指導課長 委員が御指摘のとおり、少人数教育の推進の項目については、国、都の事業です。1―2―④個に応じた学習支援というところで、国、都の施策についても記載をしています。

委員が御指摘になった少人数指導については、その次のところの個別最適な学びの実現に向けた取組みということで、会計年度任用職員を学校の申請に応じて配置しております。ここも予算としてはゼロとなっているところなので、けれども、ここは会計年度任用職員全体でまとめておりますので、個に応じた

学びのみを集計した予算を記載することが難しいため、ここはゼロと記載されております。

○知久教育長 次に、鈴木委員、お願いいたします。

○鈴木委員 先ほど澁澤委員からもありましたが、今回、見やすいまとめになっていまして、見ていて非常に助かりました。ありがとうございます。大きな流れは澁澤委員からお話ししていただきましたので、私からは、もう少し具体的な質問や意見を述べたいと思います。

まず最初に、1―1と1―2、乳幼児教育・保育の充実、知を創造する学びの推進のところを見て、日々、AIが非常に進化を遂げており、やはりAIにはない思考力を身につける基礎的な時期というのは乳幼児期と小学校低学年のタイミングであって、乳幼児教育の充実の重要性がますます高まっているとも感じております。その乳幼児教育をきちんとすることにより、次の知を創造する学びの推進へとつながっていくと思いますので、このあたりは本当にしっかりと進めていっていただければと思います。

それでは、具体的に1―1―①乳幼児教育支援センター機能の充実のところですが、区内大学との連携強化、東京都市大学との連携や昭和女子大学との連携など様々な取組みを行われておりまして、非常に成果が出ているように見受けられて、すばらしいと思いました。これは世田谷の地区では、烏山地区や玉川地区など、ほかにもいろいろな大学がございますので、そちらの大学との連携が取れていくのか、また、そういう予定があるのか、そういう点が分かったら教えていただきたいと思います。

次に、1―1―②区立幼稚園の集約化及び機能充実のところ、三年保育の導入を進めていっておりますので、皆さんが分かりやすいように速やかに進めていただけるとありがたいと思います。保護者としては、どうしても私立は三年保育が主流ですので、公立の三年保育の導入は非常にありがたいこと

だと思えます。ただ、烏山地域などで特に私立の幼稚園の閉園が相次ぎまして、今後、あの地区は保育園のみになる、幼稚園は過疎の地域になってしまいますので、そのあたりはどのように対策をしていくのか、何かお話があればいただければと思っております。

次に、1―1―⑤「学び舎」による学校運営の推進のところですが、学び舎連携のばらつきがあるという結果だったと出ているのですが、これに対する解消の手立てはあるのかお聞きしたいです。取組みの内容を共有することによって解消できるのではないかというような記載があるのですが、本当に情報の共有だけで解消できるのか疑問です。そのあたりのお考えがあったらお伺いしたいと思います。

次に、先ほど中村教育委員からもありました1―2―①のキャリア・パスポートの成果について、具体的な成果等ありましたら、こちらもお話をいただければありがたいと思えます。

1―2―⑤STEAM教育の充実は、昨年もお話ししましたが、世田谷区は非常に力を入れておりますので、ますますの推進をお願いしたいと思っております。

1―2―⑥読書力の向上も昨年お話ししましたが、やはり読書力、日本語をきちんと理解していないと、結局、国語以外の教科の学力も伸びませんので、皆さん、軽く考えているかもしれません、実は非常に大切なところであつて、情報を自分で処理する時間を確保するという点にも、読書という時間にもなっていますので、このあたりはきちんと考えていただきたいと思います。AIに頼らず、自力で調べるプロセスが大切にできるようになるのも読書の力だと思っております。

それで、1―1―ページの1―2―⑦の決算額と予算額は違うのではないですか。六千六百八十八円ということはないと思うので、千という字が抜けていま

せんか。これは修正をしておいていただければと思います。

次に、子どもの安全・安心の確保のところに飛びたいと思います。このところ意図せずに通学、登校時に交通事故に遭うという事件がたくさん起こっております。改めて、区内の警察署と連携を取り、安全対策の強化をお願いしたい。安全教育についてマニュアルも作成して、伝えているとは思いますが、恐らくマニュアルを作成した頃と状況が変わっていますので、子どもの安全については非常に大切なことですので、もう一度、検討してもらいたいと思います。あと、立川市で起こりましたような想定外の校内犯罪などもありますので、想定外を想定するというのは非常に難しいことではあるのですが、いろいろな事例を見ながら、こういうことが起こるかもしれないということをなるべく想定しながら、マニュアルだけではない対応を皆さんにぜひ考えていただきたいと思います。

最後に、学校への支援と働き方改革については、やはり周囲の理解が難しいと思います。地域、保護者の理解が不十分ですとなかなか進められませんので、こちらの理解を進められるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○知久教育長 御質問と御意見をいただきました。私のほうで整理して幾つか聞いていきますので、足りなければ、追加でご質問してください。

最初に、乳幼児教育支援センターが各大学等と連携しているが、他の地域、大学との連携予定はないかが一つ。二つ目が、三年保育を速やかに進めてほしい、烏山地域での空白地域が幼稚園で生じているが、この件についてどう考えるか。もう一つ、学び舎の取組みで、ばらつきがある対策、情報の共有だけで大丈夫か。

まず、この三点に回答いただけますか。

○米倉乳幼児教育・保育支援課長 まず、一点目でございますが、現在、昭和

女子大学と東京都市大学と連携して、記載のとおりの実業を進めているところでございます。ほかの大学との連携につきましても、教育総合センター内には大学連携の部署もございまして、区内には十七大学、学部が豊富にありますので、そうしたところとの連携も可能かどうかというところは、今後、研究していきたいと考えております。

二点目としましては、三年保育を進めてほしいというところと、烏山地域の対応ということですが、三年保育につきましては、集約化等計画に記載のとおり、集約化後にはそれぞれの集約化園で三年保育を実施するというような計画となっております。烏山地域の集約化につきましては、現在、令和十年度以降に集約化することとしておりますが、委員が御指摘のとおり、私立幼稚園が閉園になるという状況もありますので、こうした近隣の私立園の状況ですとか、幼稚園への需要数なども踏まえながら、対応については、今後、検討してまいりたいと考えております。

三点目の学び舎のばらつきに対する解消方法なのですが、乳幼児教育支援センターとしても学び舎への参加を公私立幼稚園、保育所等に呼びかけて参加を促しているところですが、それぞれの学び舎によってばらつきがあるというところは認識しております。対応につきましても研究校などで取り組んでいるところですが、当センターとしては、まだ対応策を見いだせていないところでございます。

○柄澤事業推進担当課長　それでは、学び舎についてですが、令和七年度、三つの学び舎を指定しまして、大学等、地域と連携した研究を進めているところです。この三つの学び舎の研究成果を基に、次年度、十の学び舎に発展させていきますが、研究指定という形で様々な取組みを区内に広げてまいりたいと思っております。

○知久教育長　次に、1―2のキャリア・パスポートの成果について御質問が

ございました。

○山本教育指導課長 キャリア・パスポートについてですけれども、キャリア教育推進リーダーというものを手挙げ方式で集めて毎年研究を行っています。そこでキャリア・パスポートの活用について研究して、それを各校に広めるという活動を行っています。

キャリア・パスポートについては、子ども自身になりたい自分というものを掲げて、それに向かって自分がどう成長をしたかということを定期的に振り返っております。それを教員と対話的に活用していくことを進めておりまして、保護者との三者面談のときにキャリア・パスポートを活用して、その学期、子どもがなりたいたいと思っていたもの、そこでどう成長したかということ保護者と子どもと教員で共有する。先ほど澁澤委員からあったキャリア教育は生き方の探究であるということに活用することができております。

非認知能力に関わる内容になりますので、数値的にどういう成果が出たかということとは難しいところですが、このような形で現場で浸透してきているところが成果だと考えております。

○知久教育長 一ページの1―2―⑦の決算額、予算額については。

○柄澤事業推進担当課長 令和六年度の決算、また、令和七年度の予算につきましては、大変申し訳ございません。確認をいたしまして、改めて報告させていただきます。

○知久教育長 最後に、1―6、子どもの安全・安心の確保で、想定外の事例等への対応について、お答えください。

○山本教育総務課長 学校安全対策につきましては、今年の三月に学校安全対策マニュアルを策定しまして、委員がおっしゃられるように、各校でそれぞれ記入をしまして、自分たちの各園、各校でどのようなものがふさわしいかというものを策定していただくような仕様にしております。それは更新も必ずする

ようにということ、チェックリストも設けまして、そのチェックをしたかどうかの確認をこちらのほうでさせていただくような形になります。時代によっていろいろな事件、事故、変わってくるかと思いますが、その都度、更新できるように内容を各校、各園で取り組んでいただけたらと考えております。

○知久教育長 では、次に、坂倉委員。

○坂倉委員 皆さん、取りまとめ、ありがとうございます。ほかの委員の方も御指摘いただきましたけれども、これまで年末にやっていたものがこの時期になって、資料としても非常に落ち着いた感じの資料になっていて、そういう意味では、非常に読みやすく、こんなにたくさんの方の事業を着実に進めていただいたということがよく分かりました。ですので、このタイミングですので、細かい質問というのはないのですけれども、全体的なコメントと一部の分野についてのコメントだけさせていただければと思います。

しっかりとまとまっているのですけれども、一方で、点検・評価というのはすごく細分化して、項目ごとに評価して、改善点を出してという構造になっているものですから、どうしても細かいものの現状を継続させていくという枠組みを超えるというのは難しい進め方になっていると感じます。

課題を書いてくださって、こういうふうにして進めていくというのが書かれてはいるものの、本当はもっと単なる課題を出して、改善というだけではなくて、本来もっとこうあったらいいのではないかなとか、あるいはここはなくてもいいのではないかなとか、現場では本当はいろいろなことがあるのではないかなと思いますので、その辺がしっかりと議論できるような体制になっていくといいかなと。

最近、行政の計画づくりも一部では随分変わってきていて、計画をつくると実行できるというのはほぼ幻想というか、つくった計画というのは途中で役に立たなくなったりしますので、誰が実行するのか、誰がどういうソースを持つ

ているのかということ、ある意味、タスクフォース的というか、我こそがこの事業に取り組みたいという人のイニシアチブで動かすような取組みがあってもいいと思いますし、これが教育委員会の中でどれだけできるのか分からないのですけれども、そういった体制があってもいいのではないかと。

あともう一つは、計画を通して、分野ごとに書いてありますけれども、全部つながっているのですよね。いろいろなものが相互に関連していて、その上で個別のことをやっている、そのつながっているということが意識されながら実行されていけばすごくインパクトが高くなると思うのです。一方、ばらばらにやると、この事業は何でやっているのだろうと分からなくなって、ばらばらになっていってしまうということもあるかと思っております、このシステムはすごくいいと思いますが、どこかのタイミングで何年か一遍、棚卸しではないですけれども、そもそもどうあるべきなのかとか、いろいろな事業とかき混ぜるとか、そういったことのタイミングも、計画して、実行するというサイクルの中にどこか含み込めるいいのではというふうに全体的な感想として思いました。

それから、(1)の乳幼児のところは澁澤先生がおっしゃったこと、本当にそれとおりで、公立の幼稚園が一体何を支えていくのかというところについては、明確なコンセプトを持って取り組んでいくとさらに価値が高まるのではないかと思いました。

(2)の知を創造する学びの推進のところは、前回もそのようなお話をした記憶があるのですけれども、STEAM教育を含め、総合教育センターが世田谷の教育を刷新していく、更新していく、なくてはならない組織、施設になっていると実感しています。この非常に魅力的なプログラム、たくさんデリバリーしているものを通常の学校の教育とどういうふうな位置づけにしていくのかというところは、全ての子どもたちに提供はできませんが、全体で何人ぐらいの

子たちにどういう経験を提供していくのかみたいところが見えてくると、さらに一つ一つの取組みの価値が高まっていくのではないか。

あと、結構面白い名前のプロジェクトが多いですね。インフルエンサー、ビブリオバトル、ハローキャリアワークとか、これは渡部先生が思いついてきたものが結構あると思うのですけれども、こうした取組み、しっかり個別のものがたくさんあることを生かすというのですか、それぞれが違う取組みでやっているのです、世田谷の全体の特色を出していくときに、こういう特色あるネーミングのプロジェクトがあるということは、実は単体としての価値だけではなくて、全体に及ぼすインパクトとか、何となく聞いたことがあるとか、何となく新しいことをやっているねみたいなのが伝わっていくという意味ですごく重要ではないかと今年の点検・評価の資料を見て、改めて思いました。地道にこうやっていく部分は地道にやっていくのですけれども、ある程度インパクトがあるものを戦略的にやっていくというのが非常に重要なことだと思えました。

それから、(3)の社会の担い手の育成については、特に内容についての指摘ではないのですけれども、非常に重要なテーマだと思えます。私の分野では、市民の地域への参加ということがものすごく重要な問題であるのですけれども、その前提として、よく市民のケイパビリティということを言うのですね。何かというと、自分たちで考えて、自分たちで決めて、自分たちで決めたことを自分たちで実行するということをやると自分たちの暮らしがよくなるということを信じられるかどうかということです。要は誰かにトップダウンでやってもらうとか、誰かにサービスを提供してもらわないと自分たちはよくなれないのではなくて、自分たちが自分たちで考えて何かすれば、それだけ社会がよくなるのだという実感とか信念みたいなものです。

これはよく研究者同士の笑い話で言うのですけれども、日本の超優秀なサラ

リーマンが苦手なことで、本当に優秀なだけでも、どうしても社内の上司に確認を取らないとできないみたいなものが習慣づけられていて、会社の中ではまだいいのですけれども、これが地域に出てくると、誰かに決めてもらわないと動けないという本当にもったいない状態になって、これが初等教育の本当の意味での自治活動とか生徒会、あるいはクラスのことは自分たちで考えて解いたり、自分たちでルールを決めて自分たちで守る、そういう経験だと思うので、そういうところにつながっていく。もちろん、皆さん、そのつもりでということはありませんけれども、そういう意味での担い手づくりということがさらに明確になると、現代的にもすごく役に立つ経験になるのではないかと思います。

あと、(4)の新たな学び場の確保ですが、学びの多様化学校の見通しが立って、本当にすばらしいことだなと思っています。最近、慶應病院の先生方との共同のプロジェクトの中で、不登校のことをちゃんと研究しようということが始まったのですけれども、慶応義塾のちよつと先の研究目標というのは未来のコモンセンスをつくるということらしいのですね。二十年先、三十年先の常識を今からつくっていくのだという見通しの下、研究を進めていこうという医学部のプロジェクトなのですけれども、それで振り返ってみると、今、正確な数字は分らないですが、区内でも不登校の子たちが二千人とかそれぐらいの規模でいる。

それをこれまでの常識ではかると、学校に行けないとか、行かない子たちなのですけれども、未来の常識から考えると、今の普通の学校のほうが常識ではないかもしれないというような見立てもできるわけです。そうすると、逆に学校に行っていない子というのは未来の予兆ですし、そういう意味で言うと、学びの多様化学校というのが、今の枠組みの中では特例校なのですけれども、未来から振り返ると当たり前の学校になるかもしれない、そのようなことで非常

に可能性があるのではないかと思っています。

これまでキャリア教育とか、探究学習に力を入れてきた世田谷区ですけれども、そういった多様な学び場とか、それこそ、非認知教育といったところに力を入れていくタイミングなのかと私自身も思いますし、世田谷の学びをPRしていく、フラッグシップになるのではないかと思っています。ぜひ学びの多様化学校の成果、至るところに多義的な成果につなげていけるとよいのではと思います。

最後に、学校への支援と働き方改革です。これは非常に重要な働き方改革の取組みで、成果がちゃんと出ていくことになっていくといいなと切に願っています。

何度も言って申し訳ないですけども、やっていくに当たっては、やはり現場の方々が自律的に変わっていくことをいかにサポートできるかという形で体制を進めていければと。字面だけを読むと、プランが着実に実施され、効果が上がり、進捗管理を行うというふうに書いてあって、もちろん、本当にやってもらわないと困るのでというのはあるので分かりますが、これだけを見ると、現場から見ると、やらされる感じが高くなってしまっているのではないかと懸念がありますので、ぜひとも現場の方々が自律的にいろいろなことを試しながら、失敗してもいいので何かを変えていく、自発的に、自律的に変えていく、それをしっかりサポートしていただく体制。結果、さっきのケイパビリティの話につながりますけれども、現場の教員が自分たちで考えて取り組んだらよくなったというのですか、実際に手応えとか達成感、そして、本当によくなったね、三年前に比べると格段によくなったというところが実感として得られるような形でぜひとも進めていただければと思います。

長くなりましたが、私からは以上です。

○知久教育長 今回の点検・評価について、実施時期も含めて総括的な御意見

をいただいたということですね。

印象なのですけれども、縦割りの細分化された記載が多いということで、その辺を相互に連携し合っている業務だよということかなと。あと、これも同じ意味だと思うのですけれども、インフルエンサーですとかハローキャリアワークなど単体では非常にいいことをやっているのですけれども、それをどう戦略的に高めて教育委員会として取り組み、総体として見せていくのかという御意見かと思いました。あとは現場の自律的な動き、主体的な動きをどう促していくかという御指摘もいただいたものと認識しております。この点検・評価は、今回この様式で初めてとなりますので、修正できる点については事務局で検討して、次回以降に反映をさせていただければと思います。

その他、御意見、御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次に進めさせていただきます。

(2)令和七年第一回区議会定例会及び予算特別委員会における質問について、本件に関して、山本教育総務課長より説明をお願いします。

○山本教育総務課長 それでは、令和七年第一回区議会定例会及び予算特別委員会における質問について御報告いたします。

一ページの1、議会日程を御覧ください。初めに、令和七年第一回区議会定例会についてですが、代表質問は二月十九日と二十日、一般質問は二月二十日と二十一日に行われました。

次に、令和七年予算特別委員会についてですが、総括質疑が三月六日、文教委員会所管質疑が三月十七日、補充質疑が三月二十一日にそれぞれ行われました。

全ての質問及び答弁については、区のホームページ上で閲覧が可能となります。参考までに、第一回区議会定例会における教育（文教）領域の主な質問・答弁の要旨を二ページから四ページの別紙にまとめてございますので、後ほど

御高覧いただければと思います。

報告は以上でございます。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(3) 区立小学校体育館における暑熱対策実施時期の変更について、本件に関して、船田副参事（教育施設担当）より説明をお願いします。

○船田教育政策・生涯学習部副参事（教育施設担当） 私からは、区立小学校体育館における暑熱対策実施時期の変更について御説明いたします。

1の主旨でございます。区立小学校体育館の暑熱対策につきましては、令和七年二月の教育委員会にて御報告を行ったところでございますが、契約に向けて必要な空調能力を精査し、機器の選定を行ったところ増設時期に変更が生じたので、御報告するものでございます。

2、小学校体育館の暑熱対策、(1)空調設備増設についてです。①令和七年二月の本委員会報告時点では、体育館空調環境調査の速報値により、二十二校につきまして電気容量に余裕があると判断し、令和七年七月上旬をめどに電気式空調設備のEHPを増設するとしておりましたが、年度末の空調環境調査の最終結果を踏まえまして必要冷房能力の精査を行いましたところ、十三校で冷房能力が不足することが判明いたしました。

そのため、②二十二校のうち九校につきましては、当初計画どおり、六月中旬から七月上旬にかけてEHPによる整備を行い、冷房能力が不足する十三校のうち、電気容量に余裕があり、EHPのまま機器の能力を増加することで整備が可能な六校と、電気容量に余裕がなく、EHPからガス式空調設備のGH

Pに変更する必要がある四校につきましては七月中旬から八月下旬の設置となります。また、さらに大きい冷房能力への変更が必要なGHPにつきましても、機器の確保に時間を要することから、九月から十月に設置となります。なお、令和八年度にGHP増設予定としておりました学校のうち五校につきましては、校舎棟の空調更新工事と合わせ、本年度七月中旬から八月下旬に前倒して設置いたします。具体的な学校名につきましては、二ページに別紙として記載しておりますので、後ほど御確認ください。

また、(2)に記載のとおり、空調設備増設が当初より遅れます十三校につきましては、各学校の状況に合わせ遮熱カーテンや天井への遮熱シート貼りといった遮熱対策を六月より先行して順次実施してまいります。

3の今後の対応につきましては、記載のとおりでございます。
御説明は以上です。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(4)世田谷区立図書館の管理運営方針策定に向けた今後の進め方等について、本件に関して、野上中央図書館長より説明をお願いします。

○野上中央図書館長 それでは、世田谷区立図書館の管理運営方針策定に向けた今後の進め方等について御報告させていただきます。

1の主旨でございます。図書館の運営体制につきましては、区職員による運営を基本としながら、図書館サービスをより一層充実するため、民間活用の計画的な導入に取り組んでまいりました。また、令和六年度に策定いたしました第三次図書館ビジョンでは、図書館運営体制あり方検討委員会からの運営体制

に関する提言を踏まえまして様々な課題等を整理し、区としての運営評価を行った上で、直営及び民間活用それぞれの特色を踏まえた今後の図書館運営の在り方に関する管理運営方針を今年度策定することとしておりますので、それに向けた今後の進め方についての御報告でございます。

なお、資料中段の表の中で、令和三年三月のあり方検討委員会からの運営体制に関する提言の抜粋を掲載しております。それぞれ基本的には直営という考え方ではございますが、自由度の高い図書館サービスの充実を図る必要がある場合については、指定管理者制度の順次導入を選択肢として検討することが考えられるとされております。

次に、2の運営体制の現状を御覧ください。現在、直営で運営している図書館は十一館、地域図書室は五室となります。指定管理で運営している図書館は三館となっております。その他、業務委託において運営しているところは記載のとおりでございます。

次に、二ページを御覧ください。管理運営方針策定に向けた今後の取組みでございますが、この間、区として整理、把握してきた直営及び民間活用それぞれの特色、課題を踏まえまして管理運営方針策定の検討につなげてまいりたいと考えております。また、令和四年度に設置しました区立図書館運営協議会における区立図書館の評価、検証、また、区のガイドラインに基づく指定管理館の運営状況の評価等を踏まえながら、区としての総合的な検証を行い、管理運営方針の策定を進めてまいります。

続きまして、4の管理運営方針に定める主な項目でございます。管理運営方針では、これまでの運営実績を踏まえ、それぞれが区立図書館として果たしていくべき役割や人材の確保、育成に向けた方策など、図書館全体のサービス向上につながる取組みを示してまいります。また、民間と直営それぞれが役割を果たす上で望ましい運営体制ごとの規模や実現に向けた計画についてもお示し

してまいります。

最後に、スケジュールを御覧ください。今月から十月にかけて、記事のとおり各種の評価、検証を実施してまいります。九月には管理運営方針の骨子案、令和八年二月には管理運営方針案を本委員会でお示しし、三月に本委員会にて管理運営方針の策定というスケジュールで取り組んでまいりたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(5)令和七年度教科書展示会の開催について、本件に関して、山本教育指導課長より説明をお願いします。

○山本教育指導課長 それでは、令和七年度教科書展示会の開催について御説明いたします。

まず、1、目的といたしましては、教科書関係者の教科書研究の便宜を図るとともに、地域住民等が教科書に触れる機会をつくり、教科や教科書についての一般の理解を深めるものでございます。

次に、2、展示期間・会場等につきましては、展示期間は六月十三日金曜日から六月二十六日木曜日までの十四日間で、時間は午前九時から午後五時まででございます。土曜日と日曜日も開放しております。より多くの方が閲覧できるようにしております。なお、先ほど申し上げた展示期間内に休館日はございません。

次に、展示会の種別について御説明いたします。教科書展示会は三種類ござ

います。一つ目が、国が定めた期間内の十四日間で行う法定展示会です。次に、教科書の採択替えの年度のみ東京都教育委員会として、法定展示会と連続する前後いずれかに実施する特別展示会がございます。三つ目が、採択年度のみ行う世田谷区教育委員会として実施する展示会です。令和七年度は採択替えがないため、一つ目に申し上げた法定展示会のみ開催となります。

最後に、展示会場は教育総合センター内にある教科書センターとなっております。展示内容としては、3、展示内容のとおり展示を行います。

以上の内容は、区ホームページ及び六月一日号の「区のおしらせ」にて区民の方々へ周知をいたします。

説明は以上です。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(6)令和七年度区立幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒数及び学級数等の集計結果について、本件に関して、近藤学務課長より説明をお願いいたします。

○近藤学務課長 私からは、令和七年度区立幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒数及び学級数等について、五月一日現在の集計がまとまりましたので御報告いたします。

御報告する数値につきましては、文部科学省が毎年実施している学校基本調査に回答しているものと同じ内容となります。

学校基本調査は、統計法の規定に基づく指定統計で、学校教育行政上の基本資料を得ることを目的としておりまして、幼稚園から大学、高等専門学校、専

修学校及び各種学校まで、全国全ての国公私立学校を対象として実施されているものでございます。毎年五月一日を基準日とし、学校数、在学者数、卒業後の進路状況等を調査しております。ここでは世田谷区における主要な数値につきまして御説明させていただきます。

まず、1の園児・児童・生徒数及び学級数でございます。(1)小学校につきましては、一番右の合計欄を見ていただきますと、令和七年度は合計で千三百二十学級、児童数は三万七千五百三人となっております。児童数につきまして令和五年度より減少に転じ、令和七年度につきましても減少しており、昨年度と比較して三百六十七人の減少となっております。これは全区的な児童年齢の人口動態と同様の傾向となっております。学級数につきましては、令和七年度は第六学年を四十人学級から三十五人学級へ移行したこと、また、特別支援学級の固定学級が増加したこと、二十六学級の増加となっております。

(2)中学校でございますが、同じく一番右の合計欄を見ていただきますと、令和七年度は合計で三百七十八学級、生徒数は一万一千七百十五人となっております。中学校の生徒数も昨年度から減少に転じており、今年度も三十四人の減少となっております。なお、学級数につきましては大きな変動はございませんでした。

続きまして、二ページを御覧ください。(3)については、幼稚園の学級数、園児数となっております。幼稚園につきましては、令和七年度より認定こども園、多聞幼稚園で三年保育を始めたことから、新たに三歳児を一学級、十八人受け入れておりますが、四歳、五歳の園児数は引き続き減少しており、八園合計で十七学級、二百六十二人となっております。

次に、三ページを御覧ください。2、区立小・中学校卒業生進路状況についてでございます。(1)小学校卒業生進路状況ですが、令和六年度の卒業生数の内訳としましては、区立中学校へ五九・二％、私立中学校へ三五・一％、国立

の中学校へ〇・七の方がそれぞれ進学しております。ここ数年、私立中学校へ進学する卒業生の割合が増加する傾向でしたが、令和六年度は減少しており、区立中学校に進学する卒業生の割合が増加しております。

(2) 中学校卒業生進路状況は昨年度と大きく変わりませんが、通信制高等学校へ進学した生徒の割合が若干増加しております。

続いて、四ページを御覧ください。3の学校別の学級数、児童・生徒数でございます。小学校は四ページ、中学校は五ページにそれぞれ記載しているとおりとなります。

私からの報告は以上でございます。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(8) 各課行事予定について、本件に関して、山本教育総務課長より説明をお願いいたします。

○山本教育総務課長 それでは、令和七年六月の各課行事予定について御報告いたします。

予定としましては、六月十日に第十一回教育委員会定例会、同二十四日に第十二回教育委員会定例会が予定されております。

次ページ以降に各課の詳細な行事予定表をおつけしておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

報告は以上でございます。

○知久教育長 ただいまの説明に対して、御質問、御意見がございましたら、どうぞ。

よろしいですか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、次に進みます。

(9)その他の連絡事項等はありませんか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 それでは、私から一点ございます。

五月十五日から十六日にかけて、私と教育委員四名とで愛知県の名古屋市教育委員会及び岐阜県の西濃学園中学校へ視察を行いました。この視察は、現在取り組んでいる施策のさらなる充実に向け、参考とするとともに、来年度より学びの多様化学校を開校するに当たり、学校運営等の参考とするため実施をしました。

それでは、澁澤委員から順に、感想や印象に残った取組みなどについてお話しただけだと思います。

澁澤委員、よろしく申し上げます。

○澁澤委員 最初に、名古屋市の教育委員会にお邪魔しました。ナゴヤ・スクール・イノベーションという取組みを始められています。オランダのイェナプランを名古屋流にして導入した、一週間に大体五こまから十こまぐらい、何を学ぶか、どう学ぶかということを生徒が自分で決めていくと。教員は単元のゴールと課題を示すだけという生徒の自主性を重視した教育を始めています。生徒はやりたいことを見つけ、自分で決定し、友達と助け合う、振り返りの中で言語化し、教師から様々な提案を受け、マインドセットをするという形で始めていて、始まってまだ間もないということもあるのですが、教育委員会の担当の方々からすると生徒のマインドが本当に変わってきて、今までの先進校でやっていたことの結果も含めて、これを全四百校に広げていくのだというような発言をされていました。

先ほど中村委員からもありましたが、キャリアナビゲーターという、ある意味では、学校の教育現場ではない視点の人たちがそれに関わりまして、自分らしい生き方づくりを教育と違った視点でサポートしているということもとても印象に残りました。印象としましては、学校の存在意義を子どもたちの学びの場、社会を知る場というふうに位置づけていて、そこでは生徒が主体であり、学びを決めるのは生徒、教員はサポート役と、あくまでも生徒主体の学びのスタイルを公立小・中学校の約四百校で徹底しようと、それをオール教育委員会でこの四百校を動かしているということを非常に情熱的に取り組まれているなという印象を受けました。

次に、西濃学園です。岐阜の揖斐川町、しかも、揖斐川の最上流部に近いところで、過疎集落にこの学校があります。最初はフリースクールとしてスタートしていますが、子どもたちに寄り添い、意見を聞いて、子どもたちの意見を尊重し、決して焦らせないというような教育ポリシーで学校運営をしている、主に不登校の子どもたちを対象とした学校です。

二〇〇八年からは通信制とのハイブリッドを導入したりし、二〇二二年からは学びの多様化学校としてスタートしています。先ほどちょっとお話がありましたように、ここでも臨床心理士との連携ということを大変重要視しておりますし、子どもの居場所づくりには、教員よりも地域住民の方との居場所づくりのほうが教育的効果は大きいということを自信を持っておっしゃっていました。他者の視点を教育現場に入れていく、その姿勢を非常に強く感じました。学びの多様化学校には、教員だけではなくて、多様な関わる人たちへの配慮が必要なのだということを改めて認識させていただきました。

学園の目指すものとしては、あくまでも社会的自立ができる子を育てたいと。そのためには単なる学校教育の間だけではなくて、将来の卒業後の姿を描くということも重要視していきまして、子どもの人生という長い時間軸で教育を

その中に取り組んで、一番最適化したものをつくっていかうと。単なる子ども
の自主性だけを尊重した教育だけに振れても駄目だと、やはり社会性というも
のも同時に植え付けていかなければいけないのだということをおっしゃって
ました。居場所づくりは同様に、多様な人の多様な視点を居場所づくりでどう
つくっていかうかということを感じていると。

この活動は一人の教員、まさに一教員です。それがどうしても不登校の生徒
たちを支援したいという一人の意思から始まって、志を同じくする教員がそこ
の周りに集い、それを支える臨床心理士の輪が出来上がって、大学や企業がそ
こに連携をする。まさに一人から学校、そして地域まで巻き込んだ不登校に対
する取組みになっていると、各説明してくださる方々の情熱に圧倒されて、非
常に心強い経験をさせていただきました。出張させていただき、どうもありが
とうございました。

○知久教育長 澁澤委員、ありがとうございます。

引き続き、中村委員、お願いいたします。

○中村委員 貴重な機会をいただきました、どうもありがとうございます。
名古屋につきましては、スクール・イノベーションということで、授業の中に
居場所を見つける、それで授業形態を見直そうということで、今お話が出たイ
エナプラン等を導入しております。

そういった中で印象的だったのがナゴヤ学びのコンパス、こういうものを出
しているのですけれども、基本的な考え方としては、子ども中心の学びを実現
するのだということです。重視したい学びの姿、三つをここに書かれているの
ですけれども、特に印象的なエピソードで、塾に通っていて僕は先に進んでい
るからいいのだというような感じの子が世田谷にもたくさんいるのですけれど
も、時にはその子たちが授業を妨害したりする、そういう子がこの子ども中心
の学びをやることによって興味、関心を高めて、積極的に授業に参加するよう

になったというような報告もされたのが非常に印象に残っています。これなどはうちの区で参考になることがあるのではないかと思いました。

それから、先ほど話に出ましたキャリアナビゲーター、いわゆる国家資格を持ったキャリアコンサルタントを全校配置しているというのはすごいことだなと思っています。キャリアタイムといって、特別活動や総合や各教科の中で授業をやってもらったり、または様々な関係者とのコーディネート役を担ったり、生徒自身に個別支援も行ったりと、校内の教員の研修も担ったりと、週五日、常勤だそうです。派遣会社から来るそうですけれども、うちの区で同じことが出来るかどうかも含めて、もちろん、全面実施は難しいかもしれません。今、キャリア教育推進リーダーという手挙げ方式の先生たちが担っています。その先生たちの個人的な努力だけに依存するのではなくて、こういう形の専門家の活用もあるのだということを御検討いただければと思います。

それから、西濃学園は澁澤先生が熱く語っていただきましたけれども、臨床の知見を生かすということが非常に印象に残っていて、これも三名のスクールカウンセラーが常勤しているそうです。逆に言うと、不登校の支援にとって心理職の支援というのが本当に重要なのだということがよく分かりました。現在、各学校には週に一回ぐらいしかスクールカウンセラーというのはいませんけれども、学びの多様化学校はそれで大丈夫なのかなという心配がありました。

それから、卒業後の姿を描くというお話がありましたけれども、そういった意味でも、進路指導というところ、キャリア教育も含めて、学びの多様化学校の大きな柱になるのではないかという感想を持ちました。

○知久教育長 ありがとうございます。

続いて、鈴木委員、お願いいたします。

○鈴木委員 このたびは名古屋市教育委員会と西濃学園の視察に行かせていた

だきまして、ありがとうございます。

まずは名古屋市教育委員会訪問からお話ししたいと思います。澁澤委員と中村委員とのお話とほとんどかぶってしまうのですけれども、名古屋市は幼稚園から高等学校まで四百校を超える校種があり、二〇二〇年からナゴヤ・スクール・イノベーション事業をスタートし、二〇二三年からはナゴヤ学びのコンパスを基にした子ども中心の学びへと大きくかじを切っているとのことです。

各取組みの説明を受けて特に印象に残った点について、かぶるのですが、マッチングプロジェクトの紹介として、山吹小学校の取組みについて御紹介いただいたことです。特に注目する点は、児童が各教科の単元進度表に基づいて、自分で一週間の時間割を考えるという取組みです。やはり子どもによっては差があるわけで、それぞれの児童に対し、教師がその子に合った方法をアドバイスするなど工夫もされており、おおむね成果は出しているとのことでした。また、この取組みに対して保護者の反応が気になりましたので、質問しましたが、これに対しては先生から保護者に対して何度も丁寧に説明するなどして理解を得る努力をされているということでしたので、こちらについてもおおむね受け入れられているということでした。先ほど中村委員からも話がありましたけれども、通塾している児童の中には、この取組みによって新たな学びの気づきがあったという話もありました。

次に、キャリアナビゲーターについて約百三十名、中、校、特支、全ての学校に配置しているということと、これだけの人数を確保できている点について、私は非常に驚きました。今後の課題としては、キャリアナビゲーターの資質向上と連携強化、小学校への全校配置を目指しているということです。この取組みは生徒の実態に即しているというので高い成果を出しているそうです。やはりこの取組みについても世田谷でも参考になる事例があるのではないかと思いますので、ぜひ御検討いただければと思います。

また、名古屋市のPTA活動に関して、市教育委員会ではPTA活動のすめ方Q&Aという冊子を配付し、保護者への理解を深める取組みをされているそうです。全国的に広がるPTA活動の見直しについては世田谷区と同様な状況だという印象を受けております。

次に、西濃学園の視察についてです。やはりこちらの先生方の不登校児に対する熱量と志の高さを感じました。授業の様子や生活空間を見せていただきましたが、当初、私が想像していたような厳しい感じ、非常に難しいのかなという感じはせずに、むしろ子どもをよく考えた環境だったなと思います。世田谷からも一名、西濃学園に行かれているということで、実際にその生徒さんにもお会いしましたけれども、非常に楽しそうに授業を受けておられました。やはり保護者から見ると、不登校に悩む子どもがいる保護者にとっては、こういう西濃学園のような場所、こういう選択肢があるというのは、ある意味、希望の光かなと思いつながら見学させてもらっておりました。

学園としての今の問題点はやはり経済的なところで、保護者の負担も若干多しかなというところと、行政からの助成金など、いろいろな支援がなかなか難しいというか、思ったようには集まらなかったり、そういう点も課題であるというお話をしてくださいました。卒業後のこともしっかり見据えて、そちらの教育も取り組んでおりましたので、保護者としてはとてもありがたい学園だなと思ってお話を聞いておりました。

視察を終えて、保護者としては立ち止まることができない、保護者というのは子育てをしておりますので、その現状を見ている私のような立場としては、絵空事ではない、実現可能なプランについて今後も考察して、いろいろ意見を述べていけたらと思います。また、今後の世田谷の教育について深く考える機会となりましたことを深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

○知久教育長 ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○坂倉委員　ほかの委員の皆さんと重ならないところで少しだけ。世田谷の教育にもつながるところが多くて、どちらも本当に行ってよかったなという非常に実りある研修でした。ありがとうございます。

名古屋の取組みに関しては生徒が自分で決めるということをしっかりサポートしていくということだったのですけれども、どちらにも言えるのは、教育だけでやらないということですかね。カウンセラーとか臨床心理士など、教育分野のプロフェッショナルではない人の手を借りて、子どもたちの自発性、自主性を育てていく環境をつくろうということをしている。やはり学校の中だけで閉じずに開いていくということがすごく重要だなと改めて思いました。

名古屋市は高校も含めて四百校あるのですけれども、四百校全部そうしているのだというのは、すごいプロジェクトだと思って、本当にできるのだろうかと思ったのですけれども、行ってみると非常に一体感があって、名古屋市はこうやってやっていくのだと力強く言っている。あれぐらいの規模になってもそういうふうななじ取りができるのだというふうに勇気づけられましたし、感銘を受けました。

世田谷と違うところを言うと、教員の採用が名古屋市でやっていますので、東京都採用の状況とはやはり違って、名古屋市の先生なのです。だから、ずっと名古屋市の先生なわけですから、そういう意味で、一体感とかエネルギーというのが湧いてくる。世田谷もそこは参考にしていくところがあるのではないかと思います。

あと、西濃学園は、本当に先生が名古屋の高校で、熱血先生だった先生が熱血のまま不登校の子に行くと何も分からない、いいことが起こらないということからどうすればいいのだというふうにつくってきた学校で、そういう意味で言うと、非常に思いのこもった学校で、こういうやり方もあるのだというふ

うにこれも非常に勉強になりました。ほかの方からなかったことを言うと、寮生なのでですね。ほとんどの中学生、高校生が寮に住んでいて、つまり、学校に行けない子のための学校をつくるというよりかは、学校に行けない子の暮らしの場を全体的につくるのだという取組みになっているところが非常に大きな要素だと思いました。私立ですから経営は非常に大変だということですが、社会的にも必要な機能なのだなと思いました。

西濃学園のほうから言うと、学校だけをつくるのではなくて、学校の前提となる、その子が暮らす環境もしつかりつくるということが非常に大きなヒントだと思いました。ありがとうございました。

○知久教育長 ありがとうございます。

では、最後に私から。まず、初日の視察先に当たります名古屋市教育委員会の取組み、ナゴヤ・スクール・イノベーションについて振り返りますが、こちらのスクール・イノベーション事業は、モデル校を手挙げ式で指定をして、各学校が設定したテーマに基づき実践を進めているということでした。その成果に興味を持った他の学校、教員が自校に合った形に変えながら取り入れていくという手法が取られていました。

名古屋市教育委員会では、こうした子ども中心の学びの実践を広げていくための仕掛けとして、公開授業、学習会、校長、園長の対座集会とか、教員同士の対話の会などを開催しており、教員の働き方改革、インクルーシブ教育を我が区で推進しておりますが、これらの取組みは、こうした区における先進校の実践の普及、浸透の手法としても参考になるかと感じました。

モデル校の山吹小学校、主幹教諭の方からお話を伺いました。何を、いつ、どのように学ぶかを子どもたち自ら決定する自由進度学習について御紹介いただきました。子どもたちは週ごとの学習計画を立てる際に、一週間当たり五こまから十こま程度の時間を自分で選んだ科目に充てることができます。こうし

た学びを支える前提として、学ぶための価値観、学ぶための技能を明示することが大切だというお話をされておりました。個別最適な学びの実践例として非常に興味深いものでした。

また、先ほどから出ておりますが、国家資格を持つキャリアコンサルタント、キャリアナビゲーターを配置されておりますが、教員が持つ教育学習指導の専門性に加え、異業種の人材が持つ実務経験や専門知識を活用することで社会と教育現場の橋渡しし、生徒の視野の広がり、あるいは教員の負担軽減にもつながっているということですし、教育の質を高めることも期待できると考えました。

二日目に視察をした西濃学園中学校です。こちらは先ほどからお話が出ていましたが、学園の柱に社会的自立へ向けた指導、支援を掲げており、生徒が卒業後の姿を描けるよう、学び直しの時間の確保、体験学習、五十分から四十五分へ授業時間の短縮、ボランティア活動の導入など、教育課程の編成に多くの工夫が見られました。とりわけ特徴的だったのは、先ほどからお話が出ています臨床心理士、公認心理士による支援の充実でした。臨床心理学の知見を教育に生かすという理念の下、全教職員がカウンセリングマインドを学んで、日常的にケース会議を重ねているということで、傾聴力ですとか相談スキルを高め、生徒との信頼関係にも大きく寄与しているというお話でした。また、心理士の中には教員免許を持ち、授業自体も担当されている方もいらっしゃるというお話でした。名古屋のキャリアコンサルタントの例と同様、教育現場における異業種人材の活用の重要性を改めて感じたものです。

あと、学校生活面では、通学生が三割、寮生活を送る生徒が約七割ということで、校舎の三階を男子寮として活用して、一教室を四つの個室に区切って使っていました。また、月一回は家庭で週末を過ごすなど、家庭とのつながりも大切にされておりました。実際に関東からも生徒が入学されているということ

で、短期間に生活リズムに適應したというエピソードが印象的だったのですが、起立性調節障害の診断がされている生徒は、入寮後数日で生活サイクルに適應したとお話は、寮という環境が持つ支援力の大きさを感じたところです。授業の様子も拝見させていただきましたが、少人数指導、担任、副担任制、支援員の配置など、きめ細やかな体制の下、生徒たちの表情がとても明るい印象を持ちました。

また、西濃学園は不登校に関する地域の支援拠点となっておりまして、岐阜県大垣市をはじめとする三つの自治体と連携をして、研修機会の共有、保護者会の支援、一自治体は通学の支援なども行っているということでした。学費や帰省時の交通費など保護者負担も大きくなる中で、保護者支援の重要性も感じるところです。

以上、視察を通じて得られました知見を今後の本区の教育施策に生かしてまいりますと思えます。私からは以上です。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

「「なし」の声あり」

○知久教育長 特にないようですので、報告事項の聴取は以上といたします。

本日は、資料配付が一件ございますので、御覧になっておいてください。

次回の教育委員会は、六月十日火曜日午前十時から、教育委員会会議室において開催いたします。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして令和七年第十回世田谷区教育委員会定例会を閉会いたします。

午前十一時五十七分閉会